日仏研究セミナー

「一楽照雄の世直し有機農業運動」に学ぶ

- 場所 ― 明治学院大学白金校舎 本館 10 階大会議場
- 日時 ― 2026 年 7 月 10 日 ㊐　13 時（開場 12 時）－17 時 30 分
- 主催 ― 明治学院大学国際学部付属研究所、レンヌ日本文化研究センター

アクセス

2023 年３月に開催した「自立と互助 - 日本の近代化と提携運動」を継承する日仏研究セミナーである。提携運動の衰退の要因と復活の鍵を『一楽照雄の世直し有機農業運動』（雨宮裕子著、2026 年 創森社刊）をもとに考察する。1970 年代、日本の有機農業運動は、世界の有機農業運動の頂点に立っていた。公害多発国に台頭した、生産者と消費者の「提携」は、環境に配慮のある農業を支え、地球の温暖化に抗する手段として大きな力をもつはずであった。実際、日本の「提携」をヒントに創出されたフランスのアマップやアメリカやカナダのＣＳＡは、連帯経済の一環として着実に根を広げている。フランスでは、有機農業は環境保全型の農業として認められ、学校給食の完全有機化が推進されている。有機の生産者は、ここ 20 年で 10 倍になり、有機食品や有機製品は日常の暮らしの中にある。ところが、「提携」を生み出した日本では、半世紀を経た今、産消提携のグループは、みな宅配に座を明け渡し、幕を閉じてしまった。農の工業化に反対し、「日本有機農業研究会」を創設し、協同の思想を説き続けた一楽照雄は、なぜ忘れ去られたのか。生産者と消費者の相互扶助は、なぜここまで後退してしまったのか。雨宮の著書を素材に考える。

プログラム

13:00　開催者あいさつ **浪岡新太郎**（明治学院大学大学院国際学研究科委員長）

1．13:10-15:10　**一楽照雄の世直し有機農業運動**

座長　**戸谷 浩**（明治学院大学国際学部国際学科教授）
コメンテーター　**池上甲一**（近畿大学名誉教授）

雨宮裕子『一楽照雄の世直し有機農業運動』の紹介

伊丹謙太郎（法政大学大学院公共政策研究科 教授）「戦後生協運動の発展と提携の現在地を考える」

2．15:30-17:30　**食の安全と食育**

座長　**勝俣 誠**（明治学院大学国際平和研究所）
コメンテーター　**福原圧史**（日本有機農業研究会理事長）

中島秀人（東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授）
「中島貴子（東京大学大学院法政治学研究科研究員、2018 年逝去）の『科学技術のリスク評価 ―森永ヒ素粉乳中毒事件を中心に』が浮き彫りにする、工業食品のリスク管理を考える」

猪瀬里美（元埼玉県志木市立志木中学校栄養教諭）
「地域の生産者と学校と子どもたちを結ぶ食育のあり方」